

東京工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	物質工学特別実習			
科目基礎情報									
科目番号		0026		科目区分		専門 / 必修			
授業形態		実習		単位の種別と単位数		学修単位: 2			
開設学科		物質工学専攻		対象学年		専1			
開設期		集中		週時間数					
教科書/教材		なし							
担当教員		井手 智仁							
到達目標									
企業における実習を通じ、技術開発や生産技術における諸課題について認識を深める。「ものづくり」に必要な「知識と経験」とは何かを学ぶ。「多様性がある」「多専門分野の要員が参加する」チームの中で、他者と協働する際に、自己のなすべき行動を的確に判断し、実行する能力（メンバーの能力）、協働する際に他者の取るべき行動を判断し、適切に働きかける能力（リーダーの能力）の育成を目的とする。									
ルーブリック									
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
企業等からの評価書		高評価を収める		標準的な評価を収める		低水準の評価であった		評価に値しない	
報告書		優れた報告書を期限までに提出した		標準的な報告書を期限までに提出した		報告書を期限までに提出した		報告書が期限までに提出されない	
報告会プレゼンテーション		優れたプレゼンテーションを実施した		標準的なプレゼンテーションを実施した		プレゼンテーションを実施した		プレゼンテーションを実施しなかった	
学科の到達目標項目との関係									
教育方法等									
概要		実施時期は1年次の夏休み（7月上旬～8月31日）を原則とし、期間は1ヶ月以上とする。 企業への依頼、調整ならびに学生の指導は主として特別実習担当教員が行う。ただし、特別研究で共同研究等を実施している場合は特別研究指導教員がこの任に当たることもある。 実習期間中は当該学生の所属する専攻あるいは関連学科の教員が見回りをを行い、勤務状況を把握するとともに、改善点があれば是正に努める。 企業または大学等の研究室は学生の実習状況について、評価書を学校に提出する。							
授業の進め方・方法		企業または大学等の研究室からの評価書、ならびに本人の報告書、プレゼンテーションを総合して評価する。							
注意点									
授業の属性・履修上の区分									
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業			
授業計画									
		週	授業内容		週ごとの到達目標				
前期	1stQ	1週			企業または大学等の研究室から提示されたテーマで実習を行う。 実習終了時に報告書を作成し、企業側担当者の承諾を得て学校に提出する。 チームワーク力の観点から実習後に自己評価をしてもらい、自己評価書を提出する。 実習終了後、学内における報告会で実習内容についてのプレゼンテーションを行う。チームワーク力を踏まえたプレゼンテーションを行う。				
		2週							
		3週							
		4週							
		5週							
		6週							
		7週							
		8週							
	2ndQ	9週							
		10週							
		11週							
		12週							
		13週							
		14週							
		15週							
		16週							
後期	3rdQ	1週							
		2週							
		3週							
		4週							
		5週							

		6週		
		7週		
		8週		
	4thQ	9週		
		10週		
		11週		
		12週		
		13週		
		14週		
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	企業等からの評価書	報告書	プレゼンテーション	合計	
総合評価割合	30	35	35	100	
基礎的能力	15	20	20	55	
専門的能力	15	15	15	45	
分野横断的能力	0	0	0	0	